

千客万来

H15.3.25

花澤 葡萄 所蔵 研究 印

お元気でいらっしゃいますか？

二〇〇三年こそ平和と景気の回復を願っており
 ましたが、とうとう戦が始まってしまいました。
 戦火をめぐり抜けた経験を持つ者として、はいた
 にまれない気分です。一日も早い終戦を念じ
 ております。ご家族ご親族などで関係の地域
 でお仕事をされている方がおいては……
 こうしてお便りが出来る平穏な暮らしがどれ
 だけ幸せかを思い知らされております。
 前へ向いて挑戦することを忘れず周囲の方々
 に感謝しながら今年度も歩きます。どうぞそ
 ようしくお願いたします。

食と農

過日東京で行われたWTO
 総会で食糧輸出国は完全



自由貿易をいって関税の大幅引き下げを主張
 し一方輸入国では食糧自給は一国の安全保障と国土
 の環境保全にかかわる主権の問題と位置づけて
 議論はかみ合わずに閉会となりました。

デフレの真只中、安く食糧が手に入りさえすれば
 それでよいのでしょうか。輸入で日本の農業は壊滅的
 打撃を受けつつあります。自然環境調節機能は
 早晚失われれると思われ、食糧の自給なくして
 真の独立と平和な未来が語れるのでしょうか。

先般私達は「食べるな危険」(日本子孫基金著)
 という本を読みました。輸入食糧の危険性について
 勉強しました。

昨年はBSE禍や無認可危険農薬使用の農
 産物産地偽証等々、食品の不安不信問題が続発
 しました。飽食時代に悪乗りした一部の人の責
 任でしょうか。人と自然との調和、人生と食について
 西政では深く、歴史の中で育つた自国の農
 業への安全と信頼さらに100%近い食糧自給率



など堅実さが備わっています
私達はこのような機会を教訓
として賢い消費者の皆さん
と新しい農業者が連携し合
って日本の農業を振興しなければならぬと思
います

昨斗の反省

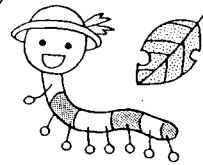
昨斗は早春から高温少雨傾向で成熟期を
迎えました。ぶどうに病気は少なく減農薬裁
培をしている私にとって大変プラスになり助かりま
した。しかし、高温多日照で葉からと土の表面から
の蒸散作用とで水分を大量に消耗したために
土中の水不足が生じました。そのため果実が
肥大しにくくなり粒が大きくなかった房が未
熟のまま、また、さらに果皮が少し硬く感じ
られいくらか甘くても、ご期待を裏切ったなあと反
省しています



今年の抱負

① 土作り 木作り

完全有機栽培 昨秋ロアールに
三トンの完熟牛糞堆肥で土作り
をしています。健全な根が張ると健康な木にな
り良い実が給ります。天候や気象の変化にも負
けない木、病虫害の発生に抵抗力のある木に育
てることを目指します。



② 減農薬栽培

完全無農薬栽培になるには未だ夢の夢……
今年も基本防除を発芽から開花まで二回
幼果期から袋掛け前まで二回計四回で終わり
たいと思います。一般の農家に比べるとかなりの
減農薬です。そのために病害虫の発生しに
く、環境に整備した雨よりハウス栽培とし周囲
には防虫ネットで被覆、更に果房には袋をかけ
て保護します。

③ 美味しさの追求

人為的な管理をさけて可能な限り木の自然の生理生態を尊重



した管理をします。各々の品種の備えてる能力を最高に發揮させるように枝葉の管理や果実の管理を周到にします。

④ 出荷時期

出来るだけ早い時期に発送できるといいのですが、本当に美味しくならないと……味の関係で出荷率はできにくいところがあります。

今うかがえてゐる問題

① 単価と生産コスト

我が家の長年の夢だった「珍しく、世界のぶどう詰め合わせ」は、四品種から五品種を一房ずつ入れていきます。これを二品種詰めにする時、時間短縮・コスト削減になるのですが、意外に人気がありやめられませんでした。

他の農家も真似をしはじめました。負けたまらぬかと思ふ気持ちもあります。

② 新設ぶどう園の水不足

やつと念願のハウスが完成しました。灌水施設も整いました。地下六メートルボーリングしまし、だが毎分三リットルぐらいしか得られず思案しています。

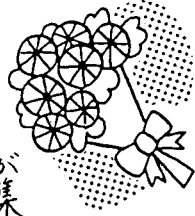
通常一月から三月は月に二回、四月と十月

は三回、五月から九月は五回ぐらい灌水が必要です。一回の灌水量は一〇アル当たり約三〇トン必要です。

③ 農薬散布を巡って

減農薬栽培。それは農薬の散布回数を減らす事と一回に使う量を少なくし散布する秒にかける農薬もやわらぐする事です。そのためには自動ハウスフレールが有効ですが見極めを取るとかなりの額でした。悩みは尽きません。





「育種賞」を いただきました

個人で地道に研究している人達が集う「全国新品種育成者の会」

という会があります(創立16年目) ところがその会の人々にもつと老を当てようと奔走してくだらうている方がおられます

新しいぶどうを七品種も登録を取り四十年近く頑張ってきた主人に目を見張って下さった方があり第九回目の育種賞の授賞とになりました。会員五の石ほどの小さな会ですがこの道一筋に歩んできた主人にとっては大変嬉しい賞となりました。

授賞者の謝辞を述べた主人が最後に「このような席に初めて家内を連れて来る事が出来て人生で一番嬉しい一日となりました。長い間支えてくれた家

内にお礼を言います」と

そのひとこと、農林水産省種苗課の会議室で出席者の皆さんから拍手が湧きました。思いがけない言葉に驚いたのは言うまでもありません。参加者の方から

「私は賞をもらった時には家内を七くしとから連れて来れんじやあ。あんた達は幸せじゃなあ」と喜寿を迎えたとは思えない方のひとこと、そしてまた

「家内は身体が弱く連れて来れんから」とつぶやかれた方

若い方々からはぶどうを食べたいとかぶどう園を訪れたいと音がかりました。

瀬戸へ居を構えてから今日までずっと私達を陰に陽に応援して下さいました。数多くの皆さんに感謝しながら会場を後にしました。今年のご案内は11月に発送いたします。どうぞよろしくお願いいたします。